【事業所概要(事業所記入)】

 1字术/// 例文 (字术// 100 / 1 / 1					
事業所番号	番号 0172901902				
法人名	有限会社 こころ				
事業所名	グループホームこころ (ユニット1)				
所在地	旭川市亀吉2条2丁目3-5				
自己評価作成日	第所名 グループホームこころ (ユニ)	評価結果市町村受理日	平成23年10月31日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

甘木桂起川いた生川口	http://system.kaigojoho-
基本 情報リノク元UKL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901902&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

(参考項目:28)

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ターミナルケアの実施

朝、夕に足浴の実施

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<人材育成と職員の自主的な取り組みの検討>

介護力の維持と向上を目指す人材育成として、内外の研修機会の確保、利用者の身体的変化による勤務体制の見直し、資格取得の斡旋、処遇改善、ターミナルケアの実体験、リーダー研修の随時受け入れなど現状でも一部実施されているが、このような具体的な目標を目指した取り組みが考えられている。また、外出の頻度の少ない方や重度の方に配慮して、生活の中での楽しみごとや身体を動かしての気分転換の提供をスタッフ間で話し合い気軽に出来るレクリエーションを年間行事に組み込む独自の工夫が検討されている。

<事業所の持つ機能を活かした支援>

障害児ディサービスや訪問看護ステーションが併設されており、児童との交流や行事の参加、看護師の派遣、ディサービス車両の利用など事業所の持つ機能を活用できる特徴的な施設となっている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目]) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己。	点検したうえで、成果について自己評価します
項目	取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	項 目 取り組みの成果 該当するものに印
職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 担んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3(らいの 3. 利用者の1/3(らいの 4. ほとんど掴んでいない	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求
利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	1. ほぼ毎日のように
利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3(らいが 3. 利用者の1/3(らいが 4. ほとんどいない	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係
利用者は、職員が支援することで生き生きした表 9 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3(らいが 3. 利用者の1/3(らいが 4. ほとんどいない	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3(らいが 3. 職員の1/3(らいが 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない
利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3〈らいが 3. 利用者の1/3〈らいが 4. ほとんどいない	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3〈らいが 2. 利用者の1/3〈らいが 3. 利用者の1/3〈らいが 4. ほとんどいない
利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な〈 1 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3(らいが 3. 利用者の1/3(らいが 4. ほとんどいない	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3〈らいが 3. 家族等の1/3〈らいが 4. ほとんどできていない
利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟 52 な支援により、安心して暮らせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3(らいが 3. 利用者の1/3(らいが	

3. 利用者の1/3(らいが

4. ほとんどいない

自己	外部評	項目	自己評価		外部評価
計価	評価	,	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	理念	に基づく運営			
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念 をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践 につなげている	「利用者の方を中心に・・」を理念にあげ、 それぞれの個性に添ったケアを心がけ 行っている。その都度(カンファレンスや全 体会議、ヒヤリハッと後の対応等)、話し合 い実践している。	事業所独自の理念をつくりあげ、全体 会議やミーティングの話し合いの中で、 管理者、スタッフが理念を共有し、その 実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	普段から隣近所の方々と、利用者を介した関わりがある。年1回お祭りを行っており地域の方達との交流も馴染みとなっている。	町内会の行事に参加しており、近所の 方々から花や収穫された野菜を提供し てもらうなどの交流をしている。また、 地域の方が介護の事やグループホー ムについて相談に訪れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人 の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活か している	入居者の方で近隣者と馴染みの関係を築いている方もおられ、その方の行動を介して、地域の方達には認知症の理解等感じ取って頂いていると思う。		
4	3		運営推進会議では、ホームの日頃の様子 や雰囲気、考え方などを感じて頂く様に話 している。また、意見なども頂いている。	今年度から市担当者の参加を得て、 様々な要望や意見を聞かせていただき 参考にしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えなが ら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市担当職員に参加して頂 いている。日頃の取り組み状況や当事業 所の内容など伝えている。	市関係課とは、運営などの相談や日常 の業務を通じて情報交換と連携に努め ている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス 指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」 を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束 をしないケアに取り組んでいる	方の状態によって、共に外出したり、一人 の散歩を楽しまれる方など、その方の状	日中の玄関の施錠を含めて、身体拘 束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待 が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努 めている	不適切なケアについて、普段から意識を 高められるよう「ヒヤリ・ハッと」後の話し合 いやカンファレンスでの話し合いで再認識 できるよう努めている。		

	l				
自己評価	外部評.	項目	自己評価		外部評価
一個	一個	2	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後 見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関 係者と話し合い、それらを活用できるよう支援してい る	必要性のある利用者には、関係者と話し合い支援していく。今後も権利擁護について、意識を高めていく為に研修への参加を奨励している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い 理解・納得を図っている	入所前の相談時には丁寧な説明を行い、 契約書、重要事項説明書を自宅に持ち帰るなど充分な理解納得が出来るよう努め ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並び に外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映 させている	利用者からの疑問、不満等を受けた場合、朝のミーティングや会議で報告し改善の為の検討を行っている。家族等に関しては、ご意見箱の設置や苦情相談の案内をエントランスに明示している。意見等があった時にはすぐに対応している。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱を設置しており、利用者、家族が気軽に話しあえる雰囲気作りに努めている。また、利用者からの疑問、不満を受けた時は、会議で報告し改善に努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞〈機会を設け、反映させている		定例会議において意見や要望、提案を 聞く機会を設けている。また、職員が各 役割に関わっており、その話し合いの 中で運営やケアに反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務 状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、 各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の 整備に努めている	各々のスタッフが1年間の目標を決め取り 組んでいる。(個人目標の設定)。外部か らの研修・セミナ - の案内情報等、積極的 に告知し、参加を奨励している。		
13	1 /	力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保	スタッフの経験年数に合わせて、研修内容を計画している。外部研修も案内を提示しスタッフ全員に周知している。GH協議会主催の研修会参加など計画的に外部研修に参加している。施設内でも勉強会等を企画し参加している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の 活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組 みをしている	GH協議会や地域のケアマネ会議等への参加により勉強会・ネットワークが作られている。他の介護施設からの実習の申し込み、受け入れがあり相互向上の機会としている。		

自己	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
評価	評価	· -	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
.5	安心と信頼に向けた関係づくりと支援			<u> </u>			
15	/	初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない時期は、出来る限り同じス タッフが関わるようにし、不安感や心細さ を軽減できるよう心がけている。				
16	/		入居利用前からの見学や相談など、できるだけ丁寧に多く関わり、家族の希望されることや入居に至る事になった状況、今後の要望等を受け止めている。				
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	予め入所に至るまでの経緯や、本人・家族の不安や意向など聞き取りケアに生かしている。 適度な距離間を大切にしている。				
18	. /	本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の暮らしのペースを大切にし一緒に過ごせるよう努めている。 入居者の方からスタッフへの心配りなどが自然にありスタッフとの関係は良好である。 入所者から学んだり、 助け合ったりの関係がある。				
19	. /	本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本 人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えて いく関係を築いている	家族とは、来所された時には、最近の様子や快適に暮らす為の支援について等相談しており、一緒に考え、その過程を共有するようにしている。				
20		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所と の関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より通われていた馴染みの飲食店、 美容室などこれからも継続して楽しむこと ができるように支援している。	利用者の友人宅への同行や以前より 馴染みの飲食店、喫茶店、美容室へ継 続的に交流が途切れないよう支援をし ている。			
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	利用者同士交流があり、気遣う行動など様々な場面で楽しまれている。又、意思表出が困難な方には、スタッフが間に入りコミュニケーションの支援をしている。				

自己評価	外部	項目	自己評価		外部評価
評価	評価	块 口	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係 性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経 過をフォローし、相談や支援に努めている	入所時の支援や電話、手紙での相談に応 じることやこころ祭の案内を出すなどして いる。		
	その	D人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に	本人から直接の意向が確認できる方は可能な限り実現できるよう支援している。 意向の表出が困難な方は、本人が「快」と感じられるような支援をしている。	一人ひとりの希望や意向に応じて可能 な限り支援している。また、意向の表出 が困難な方は、本人が「快」と感じられ る生活やケアに努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め ている	以前の暮らしの状況や家族からの情報等を把握し、本人にとって落ち着〈環境をつ〈れるよう支援をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティングでの情報伝達や看護師との情報交換、その都度の情報共有等で共有し把握している。		
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方に	日々スタッフとミーティングやその都度、課題があれば話し合っている。家族や医師、 看護師等ともその都度、情報交換し計画 の見直しを行っている。	センター方式を利用して本人、家族の 意見や思いを反映するようにしている。 また、カンファレンス、モニタリングを通 じて介護計画に職員の意見を反映して おり、見直しも行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	スタッフは業務前に記録を読んだり、情報 交換をして、利用者の暮らしの変化や身 体状況等の経過等共有している。記録と 他のスタッフとの情報交換等で、課題点な ど検討しながら実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2階に「児童デイサービス」「訪問看護ステーション」が併設されている。児童との交流や合同で年に一度お祭りを開催し、ご家族と交流している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、 本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らし を楽しむことができるよう支援している	GHの状況や入居者の理解を深めて頂ける様に、近隣の方たちとはできるだけ会話や挨拶をしながら、入居者の理解を深め、何かあった場合には連絡して頂けるようコミュニケーションを深めている。		
30	11		いかれるように本人・ご家族の意向を優先	問看護・往診が受けられ、緊急時や様	

自己!	外部評価	項目	自己評価		外部評価
評価	評価	ү	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受け られるように支援している	どの緊急時の対応も行っている。日常の		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常のADL状況や必要な情報を書面で送っている。入院中もご家族より連絡を頂いて、面会に行〈事もある。退院前に病院より状態や説明を聞〈などしている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段 階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ででき ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関 係者と共にチームで支援に取り組んでいる	合っている。又、事業所としてできること、	ターミナルケアを実践している。また、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら、その方針を職員間で共有している。また、必要時は主治医と家族を交えて話し合いをしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員 は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実 践力を身に付けている	全スタッフが状態変化・急変時の基本的な対応は理解し、行っている。バイタル測定、状態の把握と報告(訪問看護師・管理者等)をしている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利 用者が避難できる方法を全職員が身につけるととも に、地域との協力体制を築いている	全体会議で災害時の対応について話し合っており、マニュアルが作成されている。運営推進会議などで地域住民の方への情報提供や災害時の対応について話している。	マニュアルが作成され、避難訓練の実施や全体会議で災害時の対応を全職員で共有している。また、運営推進会議などで地域の方への情報提供や災害時の対応について話し合っている。	
	その	D人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のその場の状況での思い、感情を汲み取れるように接しながら、人間関係を大切にしている。	利用者の尊厳を理解し、その人に合せ たケアを行うよう職員が共有している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己 決定できるように働きかけている	本人が思いや気持ち等を自然に伝えたり、表現したりできるような環境を作っている。分からない事や納得の行かない事等、何度でも尋ねることができるような雰囲気・環境を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ご したいか、希望にそって支援している	毎朝足浴を行い、スタッフとゆっくりした時間を過ごしながら、本人の思いや今日の予定など、上手く表現できない方には、会話の中から意向を把握し希望に沿えるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支 援している	理容・美容は本人の馴染みの店など指定してもらっている。買い物など本人の行きたい所などには、職員と個別に出掛けている。		

自己評	外部	項目	自己評価		外部評価
評価	評価	Д П	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや 力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食 事、片付けをしている	その方の状態や気分に合わせて、片付け や簡単な調理の下準備など行っている。 その方の状態に応じて一緒に食事をして いる。	利用者が希望した食材や季節のメニューを取り入れ、利用者が片付けや 簡単な調理の下準備の手伝いをしている。また、利用者の体調や気分に合せ て外食が楽しめるよう支援をしている。	
41			摂取量に変化がある場合、訪問看護師と 連携し本人の好むもの、摂取しやすいも のを負担な〈摂れるよう工夫している。 誤 嚥を防ぐ為、水分ゼリーやエンシュア等で 状態に即し行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人 ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし ている	食後その方の状態によって、声かけや促し等を行い、援助の必要な方には口腔ケアを行なっている。		
43	16	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの	水分・排泄の記録をし、排泄パターンを把握している。その方の排泄リズムをできるだけ把握し、トイレへの誘導・声かけを行い失禁を防ぐようにしている。	水分、排泄の記録により、排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって声かけをして、失禁を防ぐ支援をしている。	
44		や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組	毎日適量の水分が摂れるよう支援している。排泄状況や水分、食事摂取量の把握、内服内容等看護師と連携し、把握している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		基本的には、利用する曜日は決められているが、一人ひとりの希望やタイミングを優先している。また、本人が希望すれば毎日の入浴も可能となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、 休息したり、安心して気持ちよ〈眠れるよう支援して いる	その方の毎日の過ごし方により違うが、自室で昼寝をされる方や、一人になれる共有スペースのソファで横になったりと自由に過ごされている。		
47		変化の確認に努めている	殆どの方は、服薬管理し状態変化時や薬変更時など看護師と連携している。看護師より薬の留意事項、内容変更等についての説明があり、スタッフ間情報共有している。連絡ノートにも記入し共有もれのないよう行っている。		
48	$ \ /\ $	役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽し みごと、気分転換等の支援をしている	馴染みのお店での飲食や得意料理、手芸などそれぞれ楽しまれている。各々の能力に沿って役割が持てるよう支援している。(野菜の収穫や洗濯物たたみなどなど)		

自己	外部評	項目	自己評価		外部評価
評価	評価	<u></u>	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けない	レストランでの食事、墓参り等、本人の意 向に添って外出している。 ご家族の協力も	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物、喫茶店、レストランでの食事など戸外に多く出かけられるように支援している。また、家族にも外出の協力を得ている。	
50	/	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し たり使えるように支援している	自分で管理され、殆どの支払いを行って いる方もいる。買い物などその都度預かっ ている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙の やり取りができるように支援をしている	お手伝いの必要な方には、電話をかけた りなど支援している。手紙なども同様に、さ りげなく気を配り本人のやりずらいところを 手伝っている。		
52			を置き、利用者がゆったりくつろげるように	利用者が、ゆっくりくつろげるよう共用空間に椅子やテーブルを置き、利用者が自由にくつろげるようにしている。また、季節の花や観葉植物の配置や季節の催しの飾り付けなどもしている。時々2階の障害児デイサービスに来ている子どもたちとも過ごしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫を している	共用のスペースには、所々椅子が置かれている。また、固定してはいないので、 時々場所が自然に変化して思い思いに過ごされている。		
54	20	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談し	使い慣れた整理タンスや仏壇など利用者 各々、持参されている。また、家族が本人 の好みのものを(音楽CDや写真等)持っ てこられている。	使い慣れた家具や寝具、仏壇、家族の写真等が持ち込まれている。また、身体の状況に応じて安全面に配慮して家具などの配置をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	裁縫や編み物をされる自分で洗濯機を操作できる方は、自由にして頂き、干す事ができる方には自分で干している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームこころ(ユニット1)

作成日: 平成 23 年10 月 3 日

【目標達成計画】

	~~~~ H	. —-			
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	48	外出頻度の少ない方、重度の方等の日常生活 が平坦になりやすい	生活の中で遊びやレクレーション等、集団や 個人に関わらす、楽しみごと、気分転換でき るものを提供できるとよい	・家族や利用者からの要望、意見をきく ・日課の中で体を動かせる機会を作る。(気軽にできる遊びなど) ・スタッフ間で話しあい ・年間行事など企画していく	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。 注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

【事業所概要(事業所記入)】						
事業所番号	0172901902					
法人名	有限会社 こころ					
事業所名	グループホームこころ (ユニット2)					
所在地	旭川市亀吉2条2丁目3-5					
自己評価作成日	平成23年10月3日	評価結果市町村受理日	平成23年10月31日			

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URLI http://system.kaigojohohokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901902&SCD=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

(参考項目:28)

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1 - 6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】
ターミナルケアの実施
朝、夕に足浴の実施

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】					

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目		は点検したうえで、成果について自己評価します
項目	取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに印
職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 56 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3(らいの 3. 利用者の1/3(らいの	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求
	4. ほとんど掴んでいない 1. 毎日ある	(参考項目: 9,10,19) 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように
利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が   ある   (参考項目:18,38)	2. 数日に1回程度ある 3. たまにある	通いの場やグルーブホームに馴染みの人や地   4   域の人々が訪ねて来ている   2. 数日に1回程度   3. たまに   3. たまに
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	4. ほとんどない 1. ほぼ全ての利用者が	4. ほとんどない 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 1. 大いに増えている
58   利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている  (参考項目:38)	2. 利用者の2/3〈らいが 3. 利用者の1/3〈らいが 4. ほとんどいない	者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理   2. 少しずつ増えている
利用者は、職員が支援することで生き生きした表 領情や姿がみられている (参考項目:36,37)	4. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3(らいが 3. 利用者の1/3(らいが 4. ほとんどいない	4. 主(いない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3〈らいが (参考項目:11,12) 3. 職員の1/3〈らいが 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない
利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3(らいが 3. 利用者の1/3(らいが 4. ほとんどいない	1. ほぼ全ての利用者が   2. 利用者の2/3〈らいが   2. 利用者の1/3〈らいが   3. 利用者の1/3〈らいが   4. ほとんどいない   4. ほとんどいない
利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な〈 1 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3〈らいが 3. 利用者の1/3〈らいが 4. ほとんどいない	1. ほぼ全ての家族等が   2. 家族等の2/3〈らいが   3. 家族等の1/3〈らいが   4. ほとんどできていない
利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟 52 な支援により、安心して暮らせている (会表現日: 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが	

4. ほとんどいない

自己			自己評価		外部評価
評価	評	# H	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.:	理念	*に基づく運営			
1	1	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念	経営者とスタッフ個々がそれぞれ理念を基に個人目標を設定し、理念をより具体化したケアを提供できるように取り組んでいる。又、月1回の会議で経営者、管理者からの話がある。管理者は、個々の目標への支援として、実際のケア場面や評価期日に面接など、達成感につながるよう支援している。また、スタッフが個人目標を作成しケア・仕		
2	2	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう。東北に自体が地域の、最上して日常的に京流し	事に対し目標達成に励んでいる。 町内会等の地域行事に参加している。 近所方々が花や、野菜の種、苗を持って きて下さり、共に成長を楽しんでいる。 近所の方が介護の事、GHについての事 で相談に訪れるなどしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人 の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活か している	毎年、ホームで「こころ祭」という行事を 行っている。入居者、家族、職員、近隣の 方、ボランティアの方たちと開催している。 自然な形で溶け込めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な意見を交換し要望や意見があれば 真摯に受け止め実践している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えなが ら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営についての相談などを都度相談している。 いる。 介護保険以外の各課(保健福祉・障害福祉・生活保護)や地域の消防、警察、町内会、民生委員とも連携を図っている。		
6	5	代主者お上が今ての贈号が「指定地域家差刑サービ	身体拘束についての細かな法令までは理解されていないが、施設理念に基づき拘束の無いケアを行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待 が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努 めている	職員へ有給休暇消化の推進、公休以外の休暇の付与(正月、GW、お盆の時期に)や管理者とスタッフとの面談。介護疲労やストレスに留意している。		

	41				
目   己	外部評価	項目	自己評価		外部評価
価	価		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後 見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関 係者と話し合い、それらを活用できるよう支援してい る			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い 理解・納得を図っている	入居前の家族は特に焦りや混乱、介護疲労などもある為、誤認、誤解を避ける為に書類を一旦自宅に持ち帰り読んできてもらうことにしている。(説明後すぐに契約や同意をもらわない)		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並び に外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映 させている	家族の来訪時や運営推進会議にて行っている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議にて職員、管理者、運営者が話し合い、運営やケアに関することを決定している。		
12	$  \  $	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務 状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、 各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の 整備に努めている	スタッフ個々のレベルや、学びたい事を把握し、研修の設定や、参加を呼びかけている。		
13	$  \  $	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と 力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保 や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修機会の確保をし計画的に外部 研修に参加している。 また、認知症や介護に関する研修だけで はなく、医療関係者が主催する研修への 参加も積極的に参加している。		
14	1 /	同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の 活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組 みをしている	GH協会への参画、他機関との交流や見学、運営やケアに関する情報交換を行っている。 他の事業所からの実習の受け入れも行っている。		

自引部評		自己評価		外部評価
評評	項目		 	次のステップに向けて期待したい内容
.安心	 と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人 の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人、家族と面談を行い情報 収集し、本人の生活歴や入居後の希望を 聞き入れている。(なりたい、なってほしい 姿) また、現在の不満や不安なことも聴取して いる。スタッフは担当制で利用者との信頼 関係を築きやすい。		
16	初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には家族の意向や希望、家族介護の疲労度などを話しの中から察知しできるだけ不安のないように取り組んでいる。事前訪問や見学などできるだけ、多くの関わりをもつ機会をつくる。		
17	初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	入居前には本人、家族と面談を行い情報 収集し、本人の生活歴や入居後の希望を 聞き入れている。(なりたい、なってほしい 姿) また、現在の不満や不安なことも聴取して いる。スタッフは担当制で利用者との信頼 関係を築きやすい。		
18	本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮 らしを共にする者同士の関係を築いている	介護スタッフと利用者間だけではな〈利用 者同士も支えあっている。		
19	本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本 人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えて いく関係を築いている	家族介護力の把握と家族と入居者のこれまでの関係の把握に努め、その家族の許容範囲内で利用者に関わってもらっている。介護計画への反映と家族との外出支援。		
20 8	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所と の関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人宅への同行や入居以前に 通っていた外出先(喫茶店、居酒屋、病 院)に同行している。		
21	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	利用者が孤立しないようにスタッフが仲介したりしている。 利用者同士でお互いに言葉を掛け合い、 利用者が利用者を手助けしている場面が 見られる。(車椅子を押す、食器の下膳、 困っている利用者が居る時にスタッフに声をかけて(れるなど)		

自己	自 外 己 評 評		自己評価		外部評価
評価	評価	块 口	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			利用終了した家族も時折来訪されるなど、 関係性が深いと感じる。		
	その	) 人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討してい る	本人の生活歴や家族とのやりとり、普段の会話の中から聴取し、本人が望む生活やケアに近づけられるように本人の希望する1日の過ごし方(外出、食事、入浴支援など)を配慮している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め ている	利用の以前の状況や、入居までの経緯を本人や家族、事業所などからできるだけ聞き取りを行い、入居時からできるだけ継続した支援ができるよう、サービス計画に反映している。 また、入居後もセンター方式を用いて情報収集している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	本人の生活歴や家族とのやりとり、普段の会話の中から聴取し、本人が望む生活やケアに近づけられるように本人の希望する1日の過ごし方(外出、食事、入浴支援など)を配慮している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方に ついて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介 護計画を作成している	センター方式を用いて本人の望む姿を目標に本人に関わる様々な関係者(家族、スタッフ、医療)からの多角的な意見を基に計画作成担当者が集約し介護計画に反映させている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	個別記録ではスタッフの情報共有の他 に、訪看との連携にも使用されている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の気分、状態によって変わりやすい希望やニーズには都度対応できるように職員を定数より多くし対応している。ターミナルケアの際は夜勤職員の増員などをし柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、 本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らし を楽しむことができるよう支援している	医療機関、馴染みの外出先などには、利用者の状態を分かりやす〈伝え、関わってもらい、社会との繋がりを絶つことな〈支援している。		
30	11	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が	利用者、家族の意向に沿うように聴取し希 望する医療機関との連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価
評価	評価	Ϋ́I	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受け られるように支援している	医療依存度の高い方の入居や、ターミナ		
32		た、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場	利用者がかかっている病院関係者(医師、看護師、SW)との連携は密に行っている。早期退院に向けた話し合いや退院後の病状の把握に努め連携、調整を行っている。 長期入院時に起こり得る、認知症の悪化を考慮し早期退院に向けての体制の整備をしている。その際も訪問看護、主治医と共同している。		
33	12	主反に、「「「「「「「「」」」」	利用者、その家族を主体にしスタッフや看護、医師と話しあいながらターミナルステージを迎えている。また、これから起こり得る利用者の急変に備えている。 入居者の家族(キーパーソン)以外の親族にも状態の説明をし支援の統一をし関係者全員で看取っている。		
34		利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員	旭川市の消防署の救急隊員を招き救命救急 講習を行った。全スタッフが普通救命講習修了 した。 マニュアルの作成、個別の対応等も周知され ている。		
35	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利	消防法に基づ〈防災対策を行っている。 消防団員との連携		
•	その	D人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損	利用者の尊厳を理解しケアが実施されている。 利用者が触れられた〈ない部分に関してはスタッフ全員が共有し対応している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己 決定できるように働きかけている	利用者個々に合わせて理解しやすい簡潔な言葉で説明している。また、利用者が判断できない時には選択してもらう場面をつくることや、その方の趣向を家族から聴取するなどの対応をし、できるだけ自己決定できる場面を作っている。		
38		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ご したいか、希望にそって支援している	朝の足浴時に、利用者が考えている今日の予定を聞き取り、その方に合った支援をしている。 希望を上手に伝えられない方や、環境の変化に戸惑う方には、情報、日々の記録から情報を収集し支援している。		
39		接している	個人が行きたい理美容室に同行したり訪問理容が来たりしている。 その方がほしい物の購入の際には利用者が ゆっくり選べるように職員と利用者が1対1で買物に外出している。		

自己	外部評価	項目	自己評価		外部評価
評価	評価	块	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや 力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食 事、片付けをしている	利用者が希望した食材や季節の食材をメニューに取り入れている。 食事は一緒に楽しみ、できる方は他の利用者の分の配膳、下膳をして〈れている。 利用者の体調や気分に応じて外食を楽しめるようにしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確 保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた 支援をしている	水分、栄養に配慮し提供している。 病状等にもあわせて個別支援している。		
42			口腔ケアの委員会を設置し対応している。 また、往診の歯科医から定期的に検診を うけている。 往診歯科医が講習会を行って〈れる。		
43	16		排泄、水分を記録している。排泄時間から 早めの誘導を行い、失禁を防いでいる。 また、その方の状況に応じて紙パンツや パッドから布パンツ使用をすすめている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組 んでいる	水分への配慮(介護記録にて)や内服の調整 (訪看と)、運動(散歩など)を日々行っている。 利用者が便秘でストレスや不穏にならないよう に配慮している。水分量、日常の運動量にも配慮している。 訪問看護師も注視してくれている。		
45	17	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽し	利用者が希望した日時に合せて入浴日を設定している。体調不良やタイミングによって拒否されるなどの理由で入れない日は、翌日にしたり時間帯をずらす等している。 希望される方や、必要な方は毎日入浴されている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、 休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援して いる	朝、夕の足浴では足を温めての安眠支援と、 利用者とコミュニケーションを図り、一日の出来 事、不安な事などの意思表現できるような場面 づくりを行い安眠支援をしている。		
47		や用量について埋解しており、服楽の支援と症状の  変化の確認に努めている	内服を理解し、服薬時間の工夫など、訪問看護師、医師と相談しながら行っている。訪問看護師から毎朝のミーティングにて利用者に関する薬剤の情報や取り扱い方、について説明がある。内服の変更時には都度説明と内服変更ノートにて情報の把握に努めている。スタッフからの内服に関する質問や不明点があれば都度、訪看に聞ける体制がある。		
48			畑の水やり、収穫、草むしり、掃除、食材の買出し、雪はね、などの手伝いをしてくれている。 また、利用者がやらされている感覚にならないように間隔を空けること、心身の状態を把握して声かけしていること、利用者が職員に教える、指導できる、共に考える場面を作っている。		

自己評	外部評	項目	自己評価		外部評価
評価	評価	<del>以</del> 日	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出(散歩、馴染みの店や場所など)は希望時に都度対応している。 日常的な散歩の他に、食材の買出しでは、利用者もできるだけ同行してもらうようにしている。 家族への説明、同意(状態、リスクなど)を得た場合は一人で散歩に行っている方も数名いる。(誰からも干渉されず一人で外出する喜びを得て欲しい)		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し たり使えるように支援している	利用者、家族の意向、認知症の状態でお金を施設で管理する場合。 小額を利用者に管理してもらう場合。(紛失するリスクを説明後) 買物の時だけ預ける場合。 などその利用者にあった支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙の やり取りができるように支援をしている	電話や手紙などはできない部分を介助した りしている。 入居者がよくかける電話の相手先にも協力 を得ている。		
52		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配	共用の空間には利用者がくつろげるような椅子の設置や、花、木の鉢を置いている。 不快なにおいは加湿器(殺菌、消臭効果のある機器)を使用している。 また、施設の照明の蛍光灯は白色ではなく電球色にしている。 屋外に東屋がある。 エントランス、廊下などには入居者が作った作品が飾られている。 共用空間では外を眺めたり、歌謡曲を聞いたりができる。 2階の障害児デイサービスに来ている子供たちと過ごしたりされている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫を している	各所に椅子を設置している。		
54	20		利用者の個室には自宅から本人が使い慣れた家具を持ってきてもらっている。社会的理由から自分のものがほとんど無い方には住みやすい環境を作る為に、入居後も継続して環境づくりをしている。 身体の状態に応じて安全面にも配慮しながら、家具の配置をしている。 仏壇を置いている方や、家族の写真、思い出の写真、趣味の装飾品などをそれぞれ飾っている。		
55	1 1	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の身体機能に合せて手すりの増設や福祉 用具の導入している。混乱してしまう事や、失敗に 繋がってしまう物は別の物を用意したり、自室を 間違えてしまう方には表札を設置している。 上手に意思表現ができない方(失語、重度認知症 の方)その人それぞれのサインがあることをスタッ フが周知、理解し住環境だけでは補えない部分も 支援している。		

作成日: 平成 23年 10月 3日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13 14	介護力の維持、向上	人材育成	勤務体制の変革、処遇改良、内外の研修機会の更なる確保、ターミナルケア等の実体験、資格取得の斡旋	永続的に
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。 注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。